



尚綱学院

エラ・オー・パトリックホーム



学校法人尚綱学院

## エラ・オー・パトリックホームの歴史

尚綱の歴史は 1890 年（明治 23 年）9 月に家塾を開いたことに始まります。1893 年（明治 26 年）9 月に現在の中学校・高等学校のある中島丁に移転し、すでにその場にあった住宅を仮の校舎としました。



その 3 年後の 1896 年（明治 29 年）1 月 19 日、エラ・オー・パトリックホームは、尚綱最初の建物として竣工しました。正門付近に建てられたこの建物は、2 階建の洋風建築物である「西洋館」と呼ばれる部分と、その北側に繋がる 2 階建日本式木造館からなっていました。西洋館は礼拝堂、校長室、応接室、宣教師の私室などに使用され、木造館は職員室、事務室、図書室、教室、

講堂として使用されていました。

建設当時の西洋館の外壁は下見板張りペンキ塗りでしたが、1920 年代にモルタル化したようです。

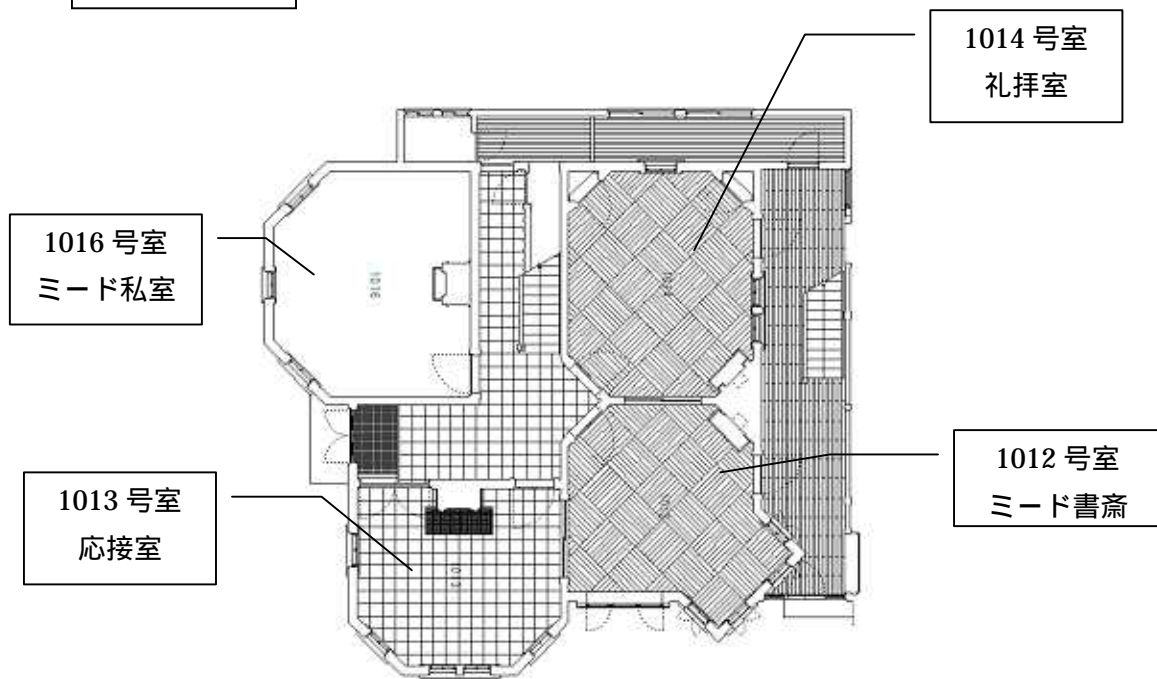
その後昭和の時代に入ると、1953 年（昭和 28 年）頃より西洋館は図書館として使用されるようになります。さらに戦後の学制改革に伴う校舎や講堂の再編・改築が尚綱でも進み、その過程の中エラ・オー・パトリックホームを建設位置より北側に移転することになり、1964 年（昭和 39 年）6 月に建物の方位を変えずに現在地へ平行移動されました。このとき北側の 2 階建日本式木造館はとり除かれ、代わって東側に書庫や閲覧室を設置、図書館としての機能を充実させました。このとき瓦屋根をトタンに変えるなど、外観の一部が変更されました。

### エラ・オー・パトリックホーム 年表

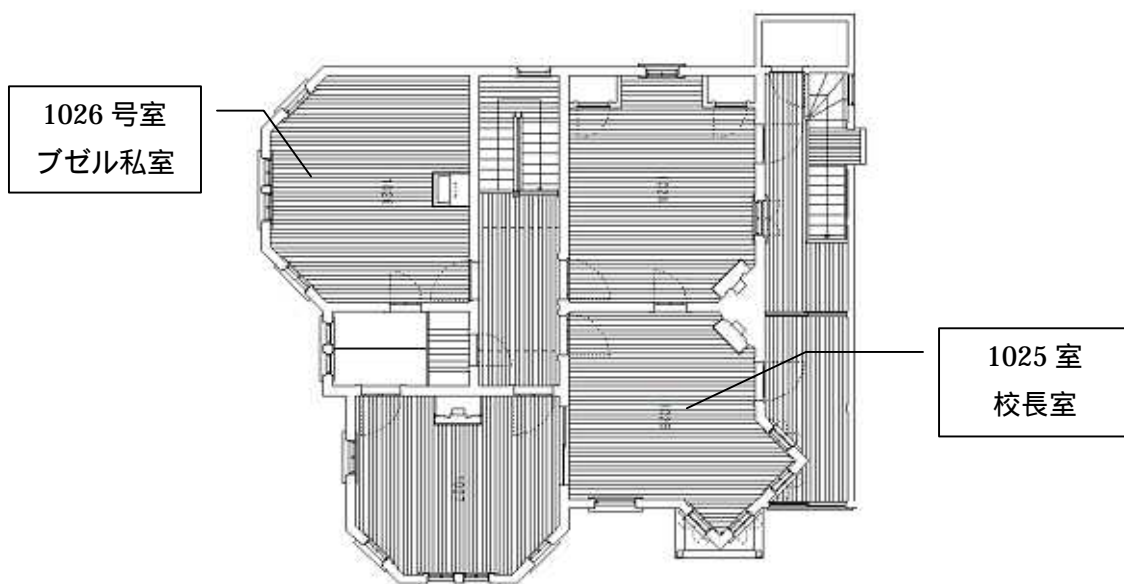
1890 年	（明治 23 年）	ミード、家塾を開く
1892 年	（明治 25 年）	尚綱女学会開校
1893 年	（明治 26 年）	中島丁に移転、ジョンズ邸を仮校舎とする
1896 年	（明治 29 年）	<b>エラ・オー・パトリックホーム竣工</b>
1920 年代	（工事年不明）	この頃外壁モルタル化
1953 年	（昭和 28 年）	西洋館を図書館として利用
1964 年	（昭和 39 年）	現在地へ移転、北側 2 階建日本式木造館取り壊し 西洋館の図書館としての機能を充実 瓦屋根をトタンに変える
1972 年	（昭和 47 年）	同窓会館として使用開始
1997 年	（平成 9 年）	「第 6 回仙台都市景観賞」歴史・文化部門を受賞

# エラ・オー・パトリックホーム「西洋館」の室内の様子

1F 現況平面図



2F 現況平面図





## エラ・オー・パトリックホーム解体・移築計画

エラ・オー・パトリックホームは、尚綱最初の建築物として1896年の竣工後、112年が経過し、その間、幾度となく補修や増築が行われてきました。老朽化に伴う建物の傷みが著しく、学院は、安全面から、これ以上の修繕を行うことは限界と判断し、惜しまれつつ2008年8月に解体されました。

### 計画前提

2007年7月から調査、2008年8月に解体・一部保存

2010年名取キャンパスに移築・復元。

解体前、解体時の調査に基づき、現状の建物で使用できる部材を利用して復元

復元時に使用できないものでも、資料としての価値があると判断した部材に関しては、保存管理し、復元した施設内で展示を検討

現状の部材で対応できない部分は新設

復元は可能な限り「建築当時」の形にする

### 工事計画

解体	2008年7月から2008年8月中旬（尚綱学院中学校・高等学校）
設計	2009年6月から2010年4月まで
復元建設	2010年5月着工
竣工	2010年10月

## エラ・オー・パトリックホームの由来

尚絅学院を象徴する建築物ともいえる「エラ・オー・パトリックホーム」。この建物が 1896 年（明治 29 年）に竣工したときには、「大きな発展であって、驚異の的となった」と『ブゼル先生傳』（栗原基著）に記されている。

では何故「エラ・オー・パトリック記念館（ホーム）」と名付けられたのか。それは一人の女性の生涯、そしてキリスト教の伝道と女子教育への情熱に由来している。その女性こそがエラ・オー・パトリックである。



**エラ・オー・パトリック**（Ella O. Patrick 1846 . 2 ~ 1892 . 11）

裕福な家庭に生まれた彼女であったが、幼少の頃より脊髄近くに腫瘍を発症、生涯のほとんどを激しい苦痛と共に病床で過ごすことになる。しかし、病の中においても彼女の輝きが陰ることはなかった。友情に熱く、どんな時も他者を真摯に悦ばせ、同様に神を愛し、キリスト教の活動に力を注ぎ、短いながらも美德に満ちた生涯を送ることになる。

特に教会活動、日曜学校の教授、世界伝道事業など宗教事業に対する働きと支援は一廉ならぬものがあつた。その働きは少年伝道隊、婦人伝道団、基督教婦人矯風会を生み出し、彼女はその指導者として敏腕をふるった。やがてシカゴの伝道会社の書記となつた彼女は、日本の女子教育に多大な同情を抱くに至るのである。

彼女の死後、彼女の父は愛娘の志を活かすため、彼女の遺産を伝道に用い、学校の新校舎建築のために多額の寄附を行う。この寄附を含むアメリカの多数の寄附により、尚絅女学会に新校舎が建築されることになった。

かくして 1896 年（明治 29 年）1 月に竣工されたこの新校舎は、彼女の遺志を伝える形で「エラ・オー・パトリック記念館（ホーム）」と命名されたのである。

### パトリックとブゼル

尚絅女学校の初代校長であるアニー・S・ブゼルは彼女の徳を讃え、明治 36 年、自ら筆をとり『ミス・パトリック略傳』を執筆している。その中でブゼルは「ここに示されたパトリック女史の一生こそ、諸子の模範として見倣うべきである」「ミス・パトリックの生涯は如何に美しい生涯であつたことよ。愛嬢諸子よ、真の婦人とは如何なるものかをここに学べ。」と記し、その生涯を讃えるとともに彼女の生き方を後の世の我々に、今なお伝えようとしているのである。

パトリックは多くの友に見守られながら、1892 年 11 月 12 日、安らかに永い眠りについた。それはブゼルが熱い志をもって日本の土を踏む、わずか二日前のことであつた。

世界伝道の幻を生涯追い続けたパトリックと、挺身海をわたり苦難の中も心ゆくまで日本女子のために働いたブゼル。目指すものは同じでもまったく違う生涯を送つたこの二人を、『ブゼル先生傳』は「何処となく似通うところがあるのを覚ゆる」と結んでいる。

エラ・オー・パトリックホームは、2008 年時点で築後 112 年が経過し、日本における西洋建築の歴史的な意味や価値は「仙台景観賞」（1996 年度）を受賞するなど誰もが認めるところであつた。今回の名取キャンパスへの復元移築計画はその点からも意義の深いものである。

しかし、この計画はその一点のみで行われるものでは決してない。日本の教育のため、神の愛を伝えるため、文字通り「他者と共に生きる」まさに本学の教育目標を先駆けたパトリックとブゼルの思い、この教えをこれから後の世代に伝えていくことこそが、この計画の根幹なのである。

## 明治時代の洋風建築について

### 明治時代の洋風建築

#### 1．宮城県内の明治洋風建築

県内に残る明治時代の洋風建築は、エラ・オー・パトリックホームの他はごくわずかだけで、全国的にも明治洋風建築物は貴重な文化遺産となっている。特にエラ・オー・パトリックホームは、住宅建築物として価値が高い。

#### 2．明治時代の洋風建築の特徴

外国人宣教師等が自ら設計した建築物で、比較的正確に西洋建築の様式を用いているが、専門の建築技術者でない場合が多い。施工は日本の伝統的建築の技術者（大工）が行ったため、そのデザインは、様式的な逸脱や和洋の混入が認められるのも特徴。

このような建築物は、明治初期洋風建築といい、明治 20 年代に流行した。

次の箇所に特徴が見られる。

- 1) 総二階
- 2) 外壁は箱目地の下見板張り
- 3) 屋根は入母屋瓦作り(日本の伝統的な建築を取り入れた和洋折衷構造)
- 4) ベランダの設置
- 5) 二階小バルコニーの設置
- 6) 階段と柱と天井部の装飾美
- 7) 壁と一体化した重厚な柱
- 8) 各部屋に設けられる暖炉
- 9) ガラス(板ガラスを使用)窓の外に、木製の鎧戸(ガラリ戸)を作る二重構造

### エラ・オー・パトリックホームの現状

#### 1．建設当初の様相

1896 年 1 月に竣工したエラ・オー・パトリックホームは、土台レンガ、外壁下見板張りペンキ塗り、瓦屋根の美しい外観を持ち、外国人による設計で日本人職人が建築した本格的な洋風建築。

洋風建築の特徴を備えると共に、重厚な作りとデザインが、壁・柱・床板等に現れている。また、日本人職人による日本の伝統的建築技術と意匠も各所に表現されている。



校長室

## 全体構造

- 1) 1・2階共に通路を挟んで、ほぼ正方形に近いに4室、計8室からなる。
- 2) 部屋の東側には1階2階にベランダを設置していた  
引戸による窓付き廊下で、夏には、引戸を収納し開放的なバルコニーとして使用。
- 3) 部屋の北側には木造2階の建物が接続していた。移転時(1962年)に解体。

## 外観

- 1) 土台はレンガ7段積
- 2) 外壁は箱目地の下見板張りペンキ塗り
- 3) 屋根は瓦葺き
- 4) 日本人職人の伝統的な装飾  
入母屋瓦作り・棟飾りの設置。  
玄関ポーチ屋根のコーチス下の子壁に雷門、子壁の支えに唐草彫りの持送を、  
バルコニー軒に見られる雲形状レリーフは仏寺の意匠。  
玄関正面破風は、反りを入れた独特の構造。  
玄関上に設置した(二階窓上)切妻の社殿風山形破風。  
切妻屋根2階バルコニーは、上部に折尺状飾り、張り出した壁は、欄干にして  
複雑な装飾を施していた。

## 室内

- 1) 柱は7寸～9寸角柱使用。
- 2) 1階床は全面寄木(90cm角の市松模様)の板張り、2階床は板張り。板厚は8分(2.4cm)。
- 3) 内壁は、日本の伝統的な工法により、土壁の上に白土の漆喰仕上げ。  
床からの立ち上がり部分には、高さ23cmの条線(装飾)を施した天然木巾木を配置。
- 4) 扉は3.8cm厚。蝶番は創建時のもの。ノブの一部は創建時のもので舶来品と思われる。扉枠は、上部角木組部分に釘隠し状の木製装飾をつけている。釘は平頭式で頭部を折り曲げた和釘を使用。
- 5) 窓は上げ下げガラス(板ガラスを使用)窓の外に、木製鎧戸(ガラリ戸)を作る二重構造。開閉を楽にするため、窓枠に滑車を内蔵した細工を施す。
- 6) 暖炉は各室に。天井板と脇柱に4種類の異なる装飾。プゼルの寝室の暖炉は、一番古い物と考えられる。
- 7) 階段手摺柱、階段手摺下に細かな装飾を施している。
- 8) 各部屋の天井周囲には高さ27.5cm、幅24cmの装飾を施した天然木廻り縁を配置し、天井部角を取り柔らかで重厚な構造にしている。
- 9) 出窓下収納引き出しが、洋室南側に設置されている。



## 色

- 1) 内壁(白)
- 2) 天井部(赤褐色)
- 3) 窓枠と鎧戸(緑)



## 学校法人尚絅学院

〒981-1295

宮城県名取市ゆりが丘4丁目10-1

022-381-3333 (代表)

エラ・オー・パトリックホームに関するお問い合わせは

法人事務局 企画調整課

022-381-3334